

日本とタイとの外交関係樹立百三十年の祝賀に際し、閣下と共に祝うことを大変喜ばしく思います。

一八八七年九月二十六日、日タイ間で「修好通商に関する日本国暹羅（シヤム）国間の宣言」が調印され、これにより両国の外交・通商関係の礎が確立され、日タイ関係の歴史の幕が切つて落とされました。当時、日本とタイ両国は、それぞれ明治天皇とチュラーロンコーン国王の下、近代国家の建設に向け、様々な取組を行っているところでありました。

それから百三十年間、日タイ二国間関係は、緊密な皇室及び王室の關係に象徴されるように、政府、民間企業、民間団体、市民社会を含むあらゆるレベルで重層的に発展してまいりました。特に、本二〇一七年三月、天皇后陛下がプミポン前国王陛下崩御の御弔問のためにタイにお立ち寄りになった際、ワチラロンコン国王陛下を始め、タイ政府、そして多くのタイ国民の皆様にご心づいたおもてなしをしていただいたことに大変な感銘を受けました。日本国民の代表として、タイ王室、タイ政府、

そしてタイ国民の皆様に対し、改めて心からお礼申し上げます。

日タイ両国民の間の交流という観点では、その起源は百三十年前にとどまらず、六百年前のアユタヤ王朝時代の日本人町まで遡ることができます。現在、七万人を超える在留邦人がタイで生活し、日本に滞在する四万七千人を超えるタイ人と共に、日タイ両国の架け橋となっています。また日本からタイへの渡航者は年間、百四十万人に達していますが、タイから日本への渡航者も、昨年には九十万人に達し、この十年間で約五・五倍になりました。歴史上、かつてない規模で両国民間の交流が行われる時代が到来しています。

二〇一三年一月、私は就任後初の外国訪問先としてタイを訪問し、二〇一五年二月には、閣下が日本を訪問されました。それ以来、閣下と共に両国関係の更なる発展について有意義な議論を行ってきたことを、また、実際に両国関係が進展していることを心から喜ばしく思います。

日タイ修好百三十周年を迎えて、これまでの交流の歴史を振り返ることは、二国間にとどまらず地域・グローバルな諸問題に協力し取り組んでいく上で、非常に重要だ

と考えます。日タイ両国は、政治、経済、文化、食文化、芸術、科学技術、スポーツ、観光、教育、学術研究を含むあらゆる分野での交流が進んでおり、極めて良好な関係を保っております。ただ、私は、これに満足せず、常に進化する未来に向けて、両国国民が絶え間なく関係の発展に向けた取り組みを続け、両国が進むべき道を共に探るための新たな機会を作っていく必要があると考えます。日タイ両国の関係が、今後、一層の成長と発展を経て、多数の花を咲かせることを願ってやみません。

最後に、閣下のますますの御健勝並びにタイの一層の御発展と御繁栄を心から祈念いたします。

平成二十九年九月二十六日

日本国内閣総理大臣

安倍晋三

タイ王国首相

プラユット・ジャンオーチャー

閣下